

令和4年11月14日

関係各位

東京都高等学校情報教育研究会
会長 福原 利信
(東京都立田園調布高等学校長)

令和7年度大学入学共通テスト試作問題「情報」に関する本会の見解

令和4年11月9日に独立行政法人大学入試センターから試作問題が発表されました。本会の「情報Ⅰ大学入試検討専門委員会」を中心に試作問題の検討をしました。以下のように報告させていただきます。本会は令和7年度の大学入学共通テスト「情報」が適正に実施されるために、関係諸団体と協力して参ります。また、高校生に対して受験に対応した指導も含めた授業の実施に向け、会員相互の研鑽をさらに深めてまいります。

I 試作問題『情報Ⅰ』について

試作問題『情報Ⅰ』は、知識及び技能を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を重視し、情報Ⅰの授業で学んだことを活かして解くことができる問題となっている。また、高校生にとって、身近な話題を多く取り上げた問題で構成されている点が評価できる。表に示した通り、4つの領域の中で、「(3) コンピュータとプログラミング」と「(4) 情報通信ネットワークとデータの活用」にやや配点が多く重点が置かれていることがわかる。試作問題を以下の通り分析した。

情報Ⅰ		(1) 情報社会の問題解決	(2) コミュニケーションと情報デザイン	(3) コンピュータとプログラミング	(4) 情報ネットワークとデータの活用
第1問	問1	○(4)			
	問2				○(6)
	問3			○(6)	
	問4		○(4)		
第2問	A	●(15)	●(15)		
	B			○(15)	
第3問				○(25)	
第4問					○(25)

(注) ●は2つの領域で(15)の配点

1. 情報Ⅰで育成を目指す資質・能力を問う問題である

知識を問う問題も見られるが、問題の多くは思考力を発揮して解く内容となっている。予備知識がなくても問題文を注意深く読み、仕組みを考えると解ける問題もある。しかし、情報Ⅰで体験的な学びを経験していれば、より速く正答を導き出せる問題となっている。

2. 学習指導要領の4つの領域が網羅されている問題である

情報Ⅰの4つの領域から出題されている。表に示される通り、「(3) コンピュータとプログラミング」と「(4) 情報通信ネットワークとデータの活用」の2つの領域に出題の重点が置かれている印象を受ける。しかし、本会は情報Ⅰで学ぶすべての領域から出題されている試作問題を評価する。出題されない分野がないことは、情報Ⅰの授業がすべての領域において偏りなく実施する必要があるというメッセージとして受け止めている。

3. 社会や身近な生活の中の題材を取り上げている問題である

「旅客機のトイレのランプ」「二次元コード」「文化祭での待ち時間」「上手なお釣りの払い方」「生活時間の統計調査」と社会や身近な生活を題材として作問されている。このような題材は、問題の発見・解決に向けて考察する力を養う、情報Ⅰでの学習が活かされる内容となっている。

Ⅱ 試作問題『旧情報(仮)』について

試作問題『旧情報(仮)』も『情報Ⅰ』同様、知識及び技能を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を重視した問題となっている。受験生は高等学校で学習した「社会と情報」、「情報の科学」から問題を選択することができる。どちらの問題も高校生にとって、身近な話題を取り上げた問題で構成されており、これまでの学習を活かして解くことが可能な問題となっている。表に示した通り、「社会と情報」では、4つの領域に満遍なく出題がされている。しかし、「情報の科学」では、「(3) 情報の管理と問題解決」の分野の出題がない。本実施に向けて検討されることが望まれる。

社会と情報			(1) 情報の活用と表現	(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション	(3) 情報社会の課題と情報モラル	(4) 望ましい情報社会の構築
第1問	A	問1			○(4)	
		問2		○(6)		
		問3	○(4)			
		問4		○(6)		
	B	○(15)				
選択	第2問					
	第3問			○(15)		
第4問			■(25)	■(25)		
選択	第5問					
	第6問				○(25)	

(注) ■は2つの領域で(25)の配点

情報の科学			(1) コンピュータと情報通信ネットワーク	(2) 問題解決とコンピュータの活用	(3) 情報の管理と問題解決	(4) 情報技術の進展と情報モラル
第1問	A	問1				○(4)
		問2	○(6)			
		問3	○(4)			
		問4	○(6)			
	B	○(15)				
選択	第2問		○(15)			
	第3問					
第4問		■(25)			■(25)	
選択	第5問		○(25)			
	第6問					

(注) ■は2つの領域で(25)の配点

III 試作問題全体を通しての見解

試作問題『情報I』『旧情報(仮)』ともに、知識及び技能を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を重視した内容であり、授業を通して学んだことを活かして解くことが可能な問題となっている。本実施に向けて、今回の試作問題をもとに問題の量や難易度が受験生にとって適切であるかを、今後も検討をお願いしたい。

『情報Ⅰ』と令和7年度限りの『旧情報(仮)』についても、1万人未満の受験者でも得点調整の対象にするとの発表もされている。既卒生も不安に思わず大学入学共通テストを受験できると考える。

また、共通テスト用プログラム表記の例示も示された。情報科の授業でこのプログラム表記を用いて机上だけで指導するのではなく、Python や JavaScript 等の実際に動かすことができるプログラミング言語で、生徒へ体験させる事も必要だろう。1年間の情報Ⅰの授業で学ぶとともに、情報Ⅱ及び情報科以外の教科や探究活動で積極的に情報を活用する学びの機会を得ることのできるようなカリキュラムマネジメントが高等学校に求められると考える。

[本件に関する問合せ先]

東京都高等学校情報教育研究会
情報Ⅰ大学入試検討専門委員会
委員長 稲垣 俊介
(東京都立神代高等学校)
Mail kento@tokojoken.jp